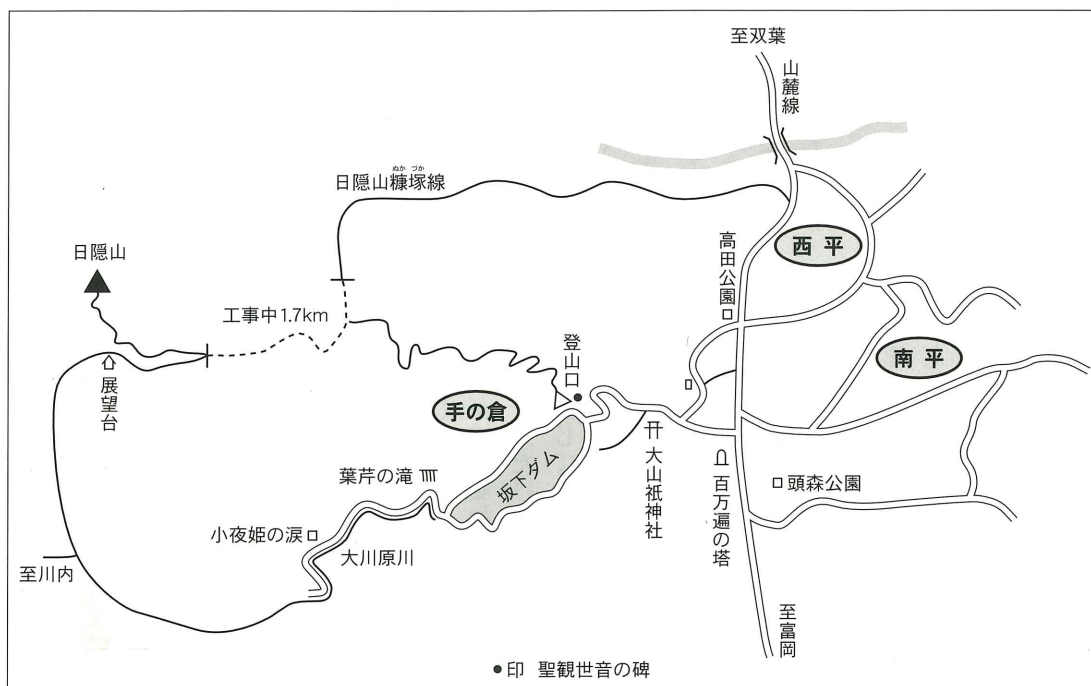


大熊町を 端から端まで 知りつくそう!

●第6回 大川原地区 (〒979-1306)

ふるさと 再発見

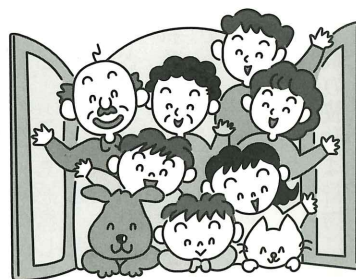
旧地名を訪ねて



今、大川原地域は、高速自動車道路富岡―Cへのアクセスの山麓線（35号）の拡幅や高速延伸のための、遺跡の調査また、日隠山周辺の登山道整備等で、景観が変わるようになっている。

【大川原地区新旧字名一覧表】

新	手の倉	西平	南平
サカ坂	シタ下	イワ岩	シタ下
ロク六	ロウ郎	カミ上	イワ井戸
ナカ仲	コ子	カミ上	シタ敷
サカ坂	ウエ上	キタ北	ハラ原
ヤゴイ	ヂ	キノ木	ネ根
アイ愛	ヨシ	シモ下	イ井戸
ヒヤコ	サワ沢	タチノ館	サワ沢
		ドウ道	タイラ平
		ナカ中	イ井戸
		ヲ与	ソ惣
		茅	ハ川
		高	田
		金	山
			奴
			金
			上



(11月30日現在)

人口	男	女	小計
南平	131	140	271
西平	76	80	156
手の倉	4	2	6
合計	211	222	433

大川原地区西平の山麓線から西に入ると日隠山糠塚線が通っています。途中まで出来ていると言うので取材にしかけてみました。



抜けるような初冬の青空のもと、車を進めていくと、唯一町内を眺望出来る場所がありました。少し残念なのは杉の木と高圧配電線で景観が二分されることですが、絶景でした。地元の人はこちらから初日の出を拝むそうです。

更に行く、工事現場になっていて進入禁止。ちょうど作業中の方が出て、工事の進み具合など伺うことが出来

ました。

この日隠山糠塚線は福島県の林道整備事業として行われており、一・七kmを残すだけとなっているそうです。また、「ここらはまだ、自然がいっぱいです。毎朝、来る途中、五、六羽の山鳥に出会います。猪もみかけます」と話されました。



この道が全線開通すると坂下ダムから大川原川(葉芹川)溪流、名水「小夜姫の涙」、日隠山へとすばらしい自然の景観が楽しめるコースになりそうです。軽登山も良し、ド

ライブも良し。

カエデ、クヌギ、ナラの新緑、紅葉の時期には、町の観光スポットに加えたいような美しい場所です。運が良ければ、山鳥、たぬきなどに出会えるかもしれません。熊はいないようなので、大丈夫だと思いますが……

坂下ダムに入るとまもなく、小高い所に旧三春街道への入り口があり、聖観世音の碑が建っています。碑には明治二十六年三月十七日、台座には建立者名が刻まれています。

通行と山仕事の安全を祈願して建てられたそうです。



大川原を救った三人の青年(民話)

今から、およそ一二二年前、この大熊の地は戊辰戦争の戦場となった。熊村も野上村も焼かれてしまった。

その時大川原村は一軒も焼かれず、三つの倉にいっぱい入っていた米もそのまま残った。この村を戦禍から救ったのは三人の青年だった。

慶応四年七月二十八日朝、上手岡平道地(今の変電所の付近)で、相馬藩の兵と官軍の間で戦いがはじまった。相馬軍は野原の中で思うように戦うことができないので、大川原を通って野上に引きあげた。大川原の人々は大変慌てた。三人の青年は、女、子供、老人たちを坂下の方に避難させた。しかし、このままだと官軍が追いかけて来て、部落に火をつけてしまうだろう。

三人は相談して、上手岡の名主渡辺様の家に向かった。官軍は部落のあちこちに休んでいた。気づかれないように裏道を行き、名主様の家に着いた。

「名主様、頼みがございます」「何だ」

「わつしら、大川原をなんとか守りてえと思ってお願ひにあがりました」

「わしにどうしろというのだ」「はい、あの、二、三日前からの雨で大川原川も野上川も大変水が出て、危ない。だから大川原を通って野上に行くのは無理なことだと官軍様にお伝えしてください」

「そうかわかった、聞いてくれるかどうかかわからんが、やってみよう」

心のやさしい渡辺様は承諾してくれた。三人は急いで大川原に帰って、泥棒に入られないように見張りをした。

やがて、官軍は夜の森に出て、新田原(西願寺付近)で仙台兵を破った。負けた仙台兵は熊村に火をつけて、一軒残らず焼いてしまった。しかし、大川原村は助かった。青年の名は清太、覚右衛門、空右衛門だったと言われている。